

# 環境や社会のためになる 活動・事業モデルを促進します

SDGsの考え方を大切に、これまですすめてきた環境活動や社会貢献を組合員、地域と共に更に発展させ、ますます参加の輪が広がる「まちくらし」



## 現在の到達点

### 環境チャレンジ目標 エコチャレ2030

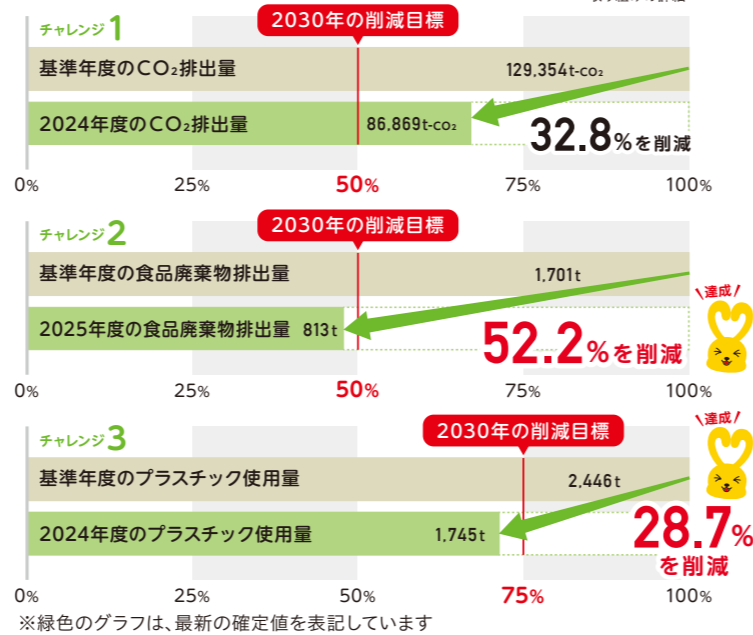
2030年に向けた環境チャレンジ目標を2018年度に策定し、取り組みを推進しています。

目標年度  
2030  
年度



エコチャレ2030  
取り組みの詳細

- チャレンジ1 事業活動におけるCO<sub>2</sub>排出量を半減!  
2050年度には排出量実質ゼロをめざす!
- チャレンジ2 事業活動における食品廃棄物を半減!
- チャレンジ3 事業活動におけるプラスチック使用量を25%削減!
- チャレンジ4 環境に配慮したエシカルな商品やサービスの開発・供給推進!
- チャレンジ5 組合員とともにエシカル消費を拡大!



## 障がいのある方が活躍しています

宅配・店舗などのさまざまな事業所で、障がいのある方の雇用をすすめ、多様性を認め合う職場づくりをすすめています。宅配では、全ての協同購入センターで障がいのある職員が活躍しています。

また店舗や地域で宅配商品の受け渡しを行う「めーむひろば」では、障がい者支援団体と共同作業で運営している拠点が、17カ所に増えました。これからも障がいのある方の活躍の場を広げていきます。



宅配の商品出荷や店舗の品出しで活躍する職員(左:協同購入センター但馬、右:コープデイズ豊岡)



地域めーむひろば「そらりす」(新温泉町)で商品の受け渡しを行う福祉施設の利用者

## 障がいのある方のアート作品を 披露する機会をつくりました

障がいのある方のアート作品を多くの方に見てもらえるよう、コープこうべの店舗などで披露する機会をつくりました。シアアでは、店内を見学し、印象に残った人や商品を描いてもらい、多くの作品が売り場を彩りました。



神戸市西区の「玉津のつどい場 たまろっと」では、地域の障がいのある方から募集した300を超える作品を展示。優秀作品を選び、カレンダーを制作し販売しました。誰もが活躍できる社会になるよう取り組んでいます。



「玉津のつどい場 たまろっと」で開催したアート作品の表彰式

## 環境を意識した 消費行動について学びました

くらしが環境に及ぼす影響に注目し、日々の買い物や利用するサービスを見直そうと、「地域つながるフォーラム2025」を開催しました。協同組合や行政、企業、地域団体など多様な団体がブースを出展。約400人が参加し、産地の課題解決をめざす商品や資源の有効活用などについて楽しく学びました。「子どもたちが学べるブースがたくさんあり、コープのファンになりました」といった声が寄せられました。



出展ブースを回る組合員

## 森づくりの活動が 「自然共生サイト」に認定されました

「コープの森・社家郷山」は、2008年度から、兵庫県・西宮市と連携して森林整備と環境学習活動をすすめています。3月には、地域の組合員と共にすすめる生物多様性に配慮した森林整備や、多様な生き物や自然と触れ合い、自然を大切にする心を育むことを目的とした動物観察会など、地域向けの環境体験イベントが評価され、環境省が認定する「自然共生サイト」に生協で初めて認定されました。



社家郷山での伐採活動の様子

## 環境保全について学習しました

「誰一人取り残さない、持続可能な社会の実現」に向け、SDGsをテーマに、再生可能エネルギーやリサイクルについて学べる見学会を開催。夏休みの自由研究を目的にするなど、68人の組合員親子が参加しました。西コースでは「朝来バイオマス発電所」と「リスパック(株)関西工場」を見学。東コースでは「(株)宝塚すみれ発電」と「鳴尾浜リサイクルセンター」を訪れ、環境保全の取り組みについて学びました。



地元木材を原料とした朝来バイオマス発電所の見学会

1 お買い物を通じたくらしの安心づくりをすすめます

2 つながりづくりをすすめます

3 環境や社会のためになる活動・事業モデルを促進します

## 持続可能な食料生産に 取り組んでいます

農林水産省は、農産物の生産時に発生する温室効果ガス排出量の削減度を、星の数で表示する環境負荷低減の「見える化」をしており、エコファームが生産する「トマト」「大根」が星3つを取得。店舗から回収した食品残さなどを原料としたたい肥による土づくりや、化学農薬の使用量削減など、これまでエコファームが取り組んできたことが評価されました。

今後も、将来にわたり安心して暮らせる社会の実現をめざし持続可能な食料生産に貢献していきます。



星3つを取得したことを知らせる店舗のトマト売り場

## 「コープでんき」の 新たな電源開発をすすめています

乳牛のふん尿が発酵することで発生するメタンガスを活用した発電施設「コープ箸荷バイオガス発電所」の本稼働準備をすすめています。発酵後の牛ふん尿から副産物として得られる消化液(液状堆肥)は地域の農業用に利用されます。エネルギーの地産地消を推進する「コープでんき」の電源開発に加え、地域資源を循環させる新たな事業モデルとしてエネルギー、食と農畜産業などのつながりを学ぶ環境学習の拠点に位置付けていきます。



本稼働準備をすすめる「コープ箸荷バイオガス発電所」(多可郡多可町)

## 生徒の学びを応援しています

コープこうべの奨学金「てとて」を通じて、修学継続と将来の夢の実現を応援しています。「てとて」は2021年、コープこうべ創立100周年を機にスタートした返済不要の奨学金制度です。コープこうべの事業エリアに居住する、高等学校、高等専門学校、特別支援学校、ならびにこれに準ずる学校に在籍する生徒を対象に、月額1万円を卒業まで給付。2025年度末の奨学生は255人で制度創設以降、158人が高校等を卒業し、進学や就職など、新たな道を歩み始めています。



奨学金「てとて」に募金をする組合員

## 地域や産地と協働で 課題解決を

規格外原材料の有効利用、地域の活性化、工場の稼働促進など地域の課題を解決するために、生産者、取引先と協働で開発をすすめる「CO・OP NEXT100商品」。春によく獲れるものの、脂乗りが悪いため需要の少ないクロダイを使って、神戸市漁協とカネテツデリカフーズ(株)とともに「兵庫県産クロダイ使用ちぎり揚げ」を開発しました。低利用魚をおいしく有効活用した商品です。他に、余剰・規格外品のいちごを使った「兵庫県産あまクイーンいちごジャム」などもデビューしました。



兵庫県産クロダイ使用  
ちぎり揚げ

兵庫県産あまクイーンいちごジャム

## 能登の皆さんに寄り添って

コープいしかわで、コープこうべの組合員から寄せられた募金の一部(約1000万円)を活用したキッチンカーが導入されました。車内にIH調理器具を備え、能登半島地震の被災地を回り、炊き出しなどを行い、被災地の皆さんのために活躍しています。

また3月には、募金を活用し、被災地の皆さんに姫路や神戸で観光や食事を楽しみ、日頃の疲れを癒してもらう「つな♡のと」旅企画を実施しました。これからも被災地の応援を続けていきます。



「つな♡のと」旅企画に参加した能登の皆さん

## アプリで新たな接点づくり

コープこうべアプリを活用し、組合員との新たなコミュニケーション企画「LIVE配信」を始めました。宅配の地域担当や店舗の職員がバイヤー、メーカーの皆さんと共に、商品紹介などを行う配信の企画。視聴者から「いいね」やチャットコメントが届き、商品の購入にもつながっており、宅配で留守にされている組合員や若い世代との接点になっています。



LIVE配信に出演する宅配の地域担当

## 終戦80年の節目に

終戦80年の節目を迎え、戦跡への旅や平和の映画会、学習会の企画を増やし、組合員と共に、平和の尊さを考える機会をつくりました。また平和への思いを表現したイラストや写真を募集。約300点が寄せられ、これらの作品をつなぎ合わせてモザイクアートを制作しました。アートを通して、平和への思いを未来につなげていきます。



組合員から寄せられた作品をつなぎ合わせたモザイクアート



「きり絵画文集『原爆ヒロシマ』」の朗読劇の上映会

1 お買い物を通じたくらしの安心づくりをすすめます

2 つながりづくりをすすめます

3 環境や社会のためになる活動・事業モデルを促進します